

令和 7 年度 第 2 回 保土ヶ谷区障害者自立支援協議会 当事者活動支援部会 議事録	
日 時	令和 7 年 6 月 11 日 (水) 13:30~15:00
開催場所	地域活動ホームゆめ ボランティアルーム
出席者	当事者、ときわ虹の会、SMILE、希望の家、生活支援センター、 高齢障害支援課、基幹相談 計 13 名
欠 席 者	
開催形態	公開（傍聴人： 名） ・ 非公開
議 題	1. 茶話会 - 参加者が自由に意見交換を行う。 - 希望の家 からメンバーさん 2 名をゲストとしてお迎え。 - A さん：15 歳の頃、事故で中途障害 B さん：先天性の身体障害 （参加者から 2 名へ一問一答形式で質問） - 体が動かなくなった時の事を覚えているか？ - 今はどのくらい体が動くか？ - 昔の車いすはどんな感じだった？ - 街中で心無い事を言われることはなかったか？ - 今の生活で楽しい事はあるか？また、これからやってみたいことは？ - 今までの人生で一番良かった事は？ - 支援者に対して不信感を抱く事はあるか？ - 昔の方が良かったと感じる事はあるか？ 等 - 他にも様々なエピソードや日々思う事、考える事を聞かせていただいた。 〇お二人が望む“10 年後の暮らし”とは？ - 障害があっても高齢になっても安心して過ごしやすい、住みやすい街になって欲しい。 - A さんにとっての安心とは？⇒ヘルパーさんなど、支えてくれる人の確保 - 障害のことを理解してくれる社会になって欲しい 2. 区制 100 周年イベントについて ◎取組内容 地域共生社会実現のため、“障害があろうがなかろうが暮らしやすい社会”をイメージできるような動画製作（当事者インタビュー、日常の記録など） <100 周年の取組について意見等> - 今回の撮影、記録を“今までの 10 年、これからの 10 年”を考える機会とした - い - ポジティブに自分たち（当事者）の事を発信していきたい。 - 障害種別ごとに配慮を受けられるような環境、人、資源の整備 - 支援が途切れるタイミング（学齢～成人など）で 1 から全てを伝え直さなくてはならないことに負担を感じる。切れ目ないサポートの実現を今後望む。 - 予算やサービスを整備しても本当に必要な支援が当事者に届いていない現実がある。 - デイケアや作業所を経てその先の就職を目指すのだが、就職に至らなかった場合

生活保護に頼るしかない。生活保護に頼らなくても済む、別の制度があると良いなと思う。

- 若年層の精神障害者は「若いんだから働けるだろ？」という意見を言われ支援に繋がらないことも多い。若い世代が必要に応じて福祉の制度にアクセスし活用できているのか知りたい。
- 発達障害はどのタイミングで気付く、診断が付く、がポイント。本人家族だけでその事実を抱え込まないようにするには？
- 当事者の親が本人をコーディネートする役割を担う現状を変えていきたい。保護者が親であり、支援者であり、教育者であり、という多くの役割を担うには無理がある。
- 保護者として“ただただ優しいお母さんでありたい”だけなのだがそれができない。
- 支える家族へのサポートも重要なのだが、産休、育休は取りやすくなってきたが、介護休暇は相変わらず取りにくい風潮を感じる。
- “その人らしさ”をサポートして欲しいが、基礎的な障害理解は前提として備えておいて欲しい。

次回：2025年8月20日（水）17：30～